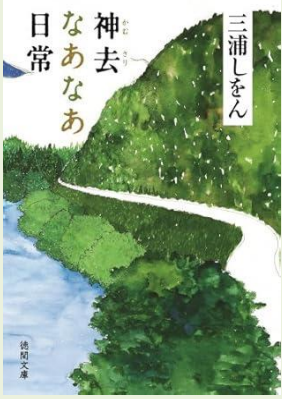


風薫る・・・この素敵な響きを持つ言葉は、新緑の季節に若葉を吹き渡るさわやかな初夏の風という意味です。季語としてだけでなく、手紙の書きだしとして用いられることもあります。晴れた日には図書館の窓を開けて、風薫る中で本を選んでみませんか？きっと、大切な一冊に出会えると思います。

季節のお薦め本

『神去なあな日常』三浦しおん



平野勇氣は高校を出たらフリーターとして生活するつもりでいました。でもなぜか三重県の林業の現場に放り込まれて携帯も通じない山奥でダニやヒルの襲来の中、一人前になろうと頑張り始めます。四季のうつくしい神去村で、勇気と個性的な村人たちが繰り広げる騒動の中で勇気がもがきながらも生きていく姿を描いた一冊です。

『生きるぼくら』原田マハ



いじめから、ひきこもりとなった24歳の麻生人生。頼りだった母が突然いなくなってしまう、残されていたのは、年賀状の束。その中の一枚に祖母からの「会いたい」という言葉がありました。4年ぶりに外の世界に出た人生は祖母のいる夢科へ向かい、人の温もりにふれ、米づくりに関わることから、大きく人生が変わっていきます。



『限界集落株式会社』黒野伸一

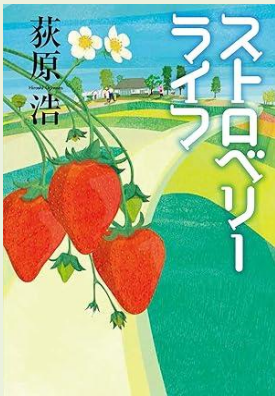
起業のためにIT企業を辞めた多岐川優が、人生の休息で訪れた故郷は、限界集落と言われる過疎・高齢化のための社会的な共同生活の維持が困難な土地でした。優は、村の人たちと交流するうちに、集落の農業経営を担うことになります。老人、フリーター、ホステスに犯罪者、かつての負け組たちが立ち上がり集落は息を吹き返します。

『わたしの美しい庭』風良ゆう



統理と小学生の百音は血のつながりのない父娘。二人が住むマンションの屋上には小さな神社があり、統理が管理をしていて『縁切りさん』と呼ばれています。断ち物の神さまが祀られているため、“いろんなもの”が心に絡んでしまった人がやってきますが、やがて心が自由になる様子を感じる物語が始まります。

『ストロベリーライフ』荻原浩



突然、父親が倒れ帰省した望月恵介が手渡されたのは『農業相続人の手引き』と『いちご白書』（苺栽培の教本）野菜農家である父親は多額の設備投資をし、苺栽培を始めていました。ハウスで採れた苺はいままで食べた苺のなかで一番甘くて、おいしく跡を継ぐ決意になりました。甘い苺づくりに夢をかける望月農園の甘くはないお仕事の物語が始まります。



『岸辺のヤービ』梨木梨歩

寄宿学校で教師をしている「わたし」は、学校近くの三日月湖で、二足歩行するハリネズミのようなふしぎな生きものと出会います。「ヤービ」と名乗るその生きものと「わたし」の交流がはじまります。ヤービの語る彼らの暮らしは、穏やかだけれど、静かな驚きに満ちていました。

「著作権法」について

本の表紙画像を使う際には、著作権の問題が生じることがあります。図書館だより、学校ウェブサイト、Googleクラスルームなどのプラットフォームで本の表紙写真を使用する場合の注意点や具体的な許諾の必要性について考えてみましょう。



図書館だよりに掲載する場合

引用として使用する場合（著作権法第32条）

表紙とともに独自の書評や感想文を掲載することで、引用として扱われ、許諾不要になります。引用の場合は、書名、著者名、出版社名、発行年などの出所を明記しています。

美術の著作物等の譲渡等に伴う複製として使用する場合（著作権法第47条の2）

図書館の場合は「著作物の貸出の申出」という意味になります。「図書館にこんな蔵書がありますよ。借りてくださいね。」と書籍を推薦すること、と言えます。学校図書館が蔵書を紹介する際には許諾なく表紙を使用できますが、蔵書として実際に保有している必要があります。



Googleクラスルームなどのクラウドに掲載する場合

Googleクラスルームのようなクラウドプラットフォームで使用する場合

授業目的公衆送信補償金等管理協会（SARTRAS）への支払が必要です。これらのプラットフォームを利用する際の利用者側の注意点は、閲覧するのみで二次利用をしないということです。自身のSNSでの公開や、他者への返信、不特定多数の掲示板への投稿を行った場合に厳しい罰則が下されるケースがありますので、注意してください。

「これって違法!?」の心配が消えるITリテラシーを高める基礎知識 井上拓著



著作権を知らないがゆえの、SNS上でのトラブルが多発しています。一般の人もSNSで発信することが簡単になったため、誰もが被害者にも加害者にもなり得る時代です。SNS各社独自のガイドラインや利用規約にも従う必要があります。そんな時代の複雑な著作権の世界を「中学生でもわかる」レベルにかみ砕いて様々な具体事例を紹介しながら、SNSに特化した最新情報を解説しています。他人の作品を正しく利用する方法や炎上した時の対処法まで掲載した画期的な一冊です。

『やなせたかし』特集

現在放送しているNHKの朝ドラマ『あんぱん』は、『あんぱんまん』の生みの親であるやなせたかし夫婦をモデルにした物語です。主人公のぶと嵩が困難の中で夢を追い、最終的に「パンダマン」を生み出すまでの道のりが描かれています。やなせたかしさんは幼少期は劣等感に悩み、戦争も経験し、作品がブレイクしたのは七十歳手前と、その人生は必ずしも順風満帆ではなかったといえます。しかし、どんなときにも希望を失わず前へ進んできた彼の言葉からは、生きることの素晴らしさやよろこびが伝わってきます。そんなやなせさんの心がこもったエッセイや、大人になっても是非読んでほしい絵本などを紹介します。

『おとうとものがたり』



父を亡くし、母とも離れ離れになった、兄と弟。それでも僕らには、楽しいことがいっぱいあった。やがて青年になった僕らに戦争という影が忍び寄る。なぜ僕だけが生き残り、僕だけがここにいる。アンパンマンの作者が、生涯をかけて問い続ける『正義とは何か』をテーマに綴られた一冊。

『ボクと、正義とアンパンマン』



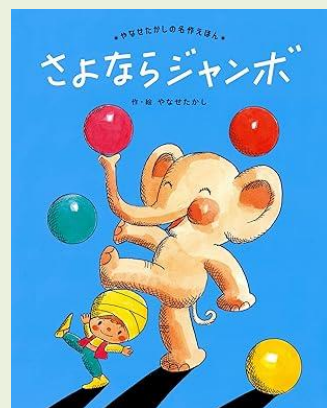
「人が一番うれしいのは、人をよここばせること。人は皆、それぞれの得意なことを活かして他者をよここばせて生きているのではないか？」子どもたちから学んだという純粋な心から、何のために生まれて何をして生きるのかを、著者が考えたエッセイ集です。

『やさしいライオン』



みなしごライオンのブルブルと、お母さんがわりの犬のムクムク。優しい子守歌を聞き、ブルブルはどんどん大きくなります。そしてついにお別れの時がやってきます。よろこびとかなしみ、絶望とそのとりにある希望をやさしく描いた名作。

『さよならジャンボ』



南の国からやって来た、象のジャンボと象使いのバルー。小さな国で、みんな楽しく暮らしていましたが、ある日東と西の国の戦争に巻き込まれてしまいます。国民の命を守るため、王様はジャンボを殺そうとします。平和の尊さと命の重さについて問う一冊です。

第12回高校生直木賞決定



フランスには、読書教育の一環として30年以上にわたって行われている「高校生ゴンクール賞」があります。その日本版を目指して2014年5月に第1回が開催されました。全国の高校生が直近一年に直木賞の候補作となった作品から、高校生にふさわしい作品を選び『高校生直木賞』を選びます。今年度の第12回高校生直木賞は月村了衛さんの『虚の伽藍』（新潮社）に決定いたしました。



『虚の伽藍』月村了衛

日本仏教の最大宗派・燈念寺派。弱者の救済を志す若き僧侶・志方凌玄がバブル期の京都で目にしたのは、暴力団、フィクサー、財界重鎮に市役所職員など古都の金脈に群がる魑魅魍魎だった。腐敗した燈念寺派を正道に戻すため、あえて悪に身を投じる凌玄が、見たものは金にまみれた求道の果ての世界だった。人間の核心に迫る圧巻の社会派巨編です。

部長のお薦め本コーナー

各部活動の部長の皆さんが、それぞれのお薦め本を選んでくれました。とても良い本ばかりです。図書委員が部長の皆さんのアクスタを作成して、本の紹介コーナーを設けました。どんな本があるのかチェックしてみてくださいね。



部活に真剣に打ち込んでいる部長の皆さんがお薦めしてくれた本は誰かの心に響く作品が選ばれていると感じました。一人ずつ了承を得て、アクリルスタンドを作成することを許可してくれました。良いコーナーになっていますが、本以外の展示には触れないようにお願いします。図書委員長 32HR嶋津